

9月1日 防災の日

自分の命は自分で守る。

危ない！と思ったら「安全な場所」へ避難する

大地震がきたらどこへ逃げますか？
大雨が降ったらどこへ逃げますか？
台風が近づいてきたらどこへ逃げますか？

皆さんは災害が『起きそうなとき』『災害が起きたとき』身の危険を感じたら、どこに逃げるでしょうか。

町では多くの公共施設等を「避難所」「避難場所」に指定していますが、災害によって全ての公共施設が「安全な場所」であるとは限りません。

『安全な場所』それは、時には高い場所、時には大きな建物や落下物の恐れのない場所、時には近くにある公共施設の中（避難所）等です。皆さんは自分の身を守るため、とつさに判断し逃げなければなりません。

万一のとき、多くの方が心配していることだと思えます。では、わたしたちは、どこに逃げたらよいのでしょうか。それは『安全な場所』です。そしてそれは、住んでいる皆さんが、よく知っているのではないのでしょうか。



自主防災組織

自主防災組織とは、いざ災害が起こったときに、自らの身や地域を守るために自主的に活動する組織です。

例えば、災害が起きたことを想定し避難訓練を自分たちの地域で行い、具体的な役割分担を決めて活動するための組織づくりです。

この自主防災組織は、公の責任や権利義務というものはなく、住民皆さんの善意と自主性に基づく活動をするようになります。

日頃は火災の防止や消火訓練、避難訓練、啓発活動を行うことが大きな役割となり、大規模災害において地域住民同士の連携による避難及び避難生活に必要な活動、災害弱者の情報把握などに、大きな期待が寄せられています。

このような活動は、皆さん一人ひとりが自分のできることを考え、地域の皆さんで役割を分担することで

スムーズな活動をすることができるよう。

東部町内会自主防災組織の防災訓練の様子（平成22年）



給食・給水班

避難・誘導班

避難計画

避難計画は、より多くの人を、より安全な道で、よりスムーズに避難させるための計画です。

例えば、安全な場所へ行く一番近い道に倒壊の恐れがある場合、どの道が一番安全でスムーズな道なのか、みんなで集まって話し合い、計画をやり直します。

地域の団結力を生かし、地域の実情を活かした避難

計画を作ってみてはいかがでしょうか。役場の職員よりも、地域に詳しい皆さんなら、より良い避難路や避難場所がわかるのではないのでしょうか。もちろん、町では、皆さんが地域の避難計画を作ってお手伝いをさせていただきます。まずは、地域の皆さんで計画づくりについて相談してみたいかがでしょうか。

避難計画の大きな柱は、より多くの人を、より安全な道で、よりスムーズに避難させることです。「この道はブロック塀があり、倒壊した場合通れない」「この家の裏道を通れば、裏山の畑に抜ける」「この道は雨が降った時に水が走る」など、地域の実情に詳しい人が必要であり、かたよった意見とならないように多くの人が参加することが必要となります。

こうして、地域の皆さんが集まって話し合いを進めることで、より良い計画が誕生します。

「防災組織の見直しを考えています」

東部町内会（北川和人会長）は、平成19年に自主防災組織を作り、毎年、津波や集中豪雨などの災害を想定した避難訓練を自主的に行っています。

「防災組織を作ったきっかけは？」

東部町内会は、前方が海、背後は急傾斜地という、災害が起こりやすい地形で、さらに高齢のひとり暮らしが多いんです。逃げる道や場所がどこなのか、自分はどうしたら助かるのかという意識を持つことが必要だと感じ、平成19年に組織を作り避難訓練などの活動を行うようになりました。

「避難計画の作成予定は？」

今年、8月25日に津波を想定した避難訓練を行う予定で、訓練後に町内会で避難計画を作る話し合いをして、今後原案をもとに町内会のみんなで作っていきましょうと思っています。

町内会にある避難所は、起きた災害によって、安全な場所であったり、避難するとかえって危険となる場合もあります。どこへ逃げ



東部町内会事務局 藤谷博一さん